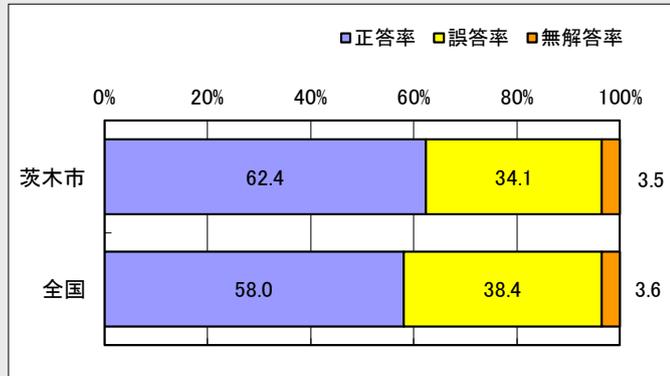


正答率比較

平均正答率は、全国を4.4ポイント上回った

令和7年度 小学校算数 正答率等比較

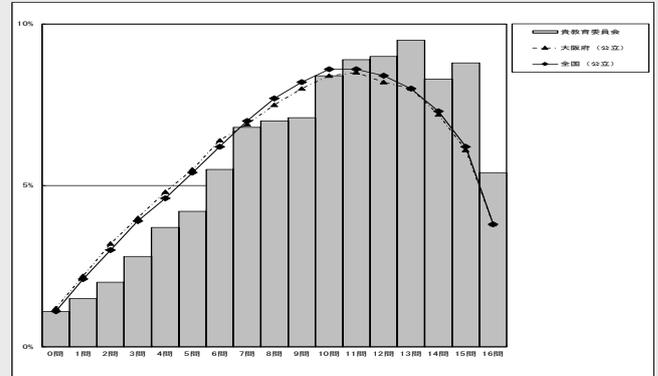


- ◆ 全国の平均正答率が 58.0%であるのに対し、茨木市では 62.4%で、全国を 4.4 ポイント上回った。
- ◆ 誤答率については、全国より 4.3 ポイント低い。
- ◆ 無解答率については、全国より 0.1 ポイント低い。

正答数分布

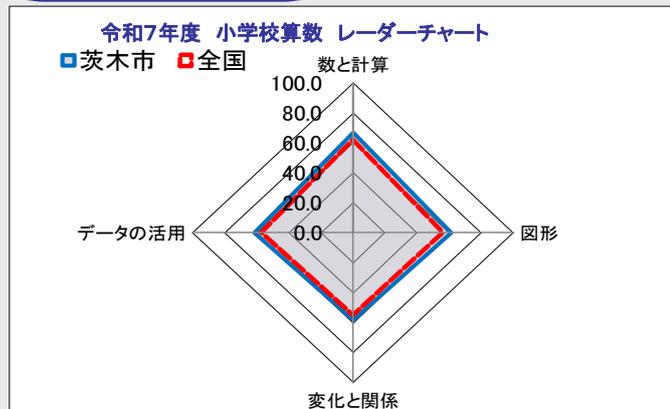
学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である

令和7年度 小学校算数 正答数分布グラフ



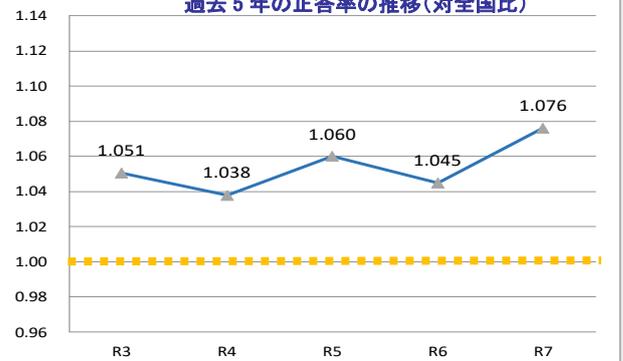
- ◆ 全国は 10 問、茨木市は 13 問正解の児童の割合が最も多い。
- ◆ 正答率 40%以下(0~6問正解)の児童の割合は 20.8%である。(内 20%以下(0~3問正解)の児童の割合は 7.4%)
- ◆ 正答率 80%以上(13~16問正解)の児童の割合は 32.0%である。

領域別



正答率経年比較

過去5年の正答率の推移(対全国比)



課題があった設問

○家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く (正答率 29.4%)

③ ひろとさんたちは、少数や分数のたし算についてふり返っています。

(2) ひろとさんたちは、分数のたし算についても、小数で考えたようにふり返っています。

まず、みおりさんは、 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ についてまとめています。



$\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の 2 個分、 $\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の 1 個分です。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ の計算は、 $\frac{1}{5}$ をもとにすると、2 + 1 を使って考えることができます。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ は、もとにする数を $\frac{1}{5}$ にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について考えています。



$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の 3 個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の 2 個分です。

もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

(正答例)

- ・ $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ のもとにする数を同じ数にするとき、その数は $\frac{1}{12}$ になります。 $\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{12}$ の9個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{12}$ の8個分です。

正答の条件

次の①、②、③の全てを書いている。

- ① $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ に共通する単位分数が、 $\frac{1}{12}$ であることを表す数や言葉(分母が12の倍数の単位分数を含む)
- ② $\frac{3}{4}$ が共通する単位分数の幾つ分かを表す数や言葉
- ③ $\frac{2}{3}$ が共通する単位分数の幾つ分かを表す数や言葉

解答類型	反応率 (%)	正答
①、②、③を全て書いているもの	29.4	◎
②、③を書いているもの	0.3	
①、②を書いているもの	0.5	
①、③を書いているもの		
①を書いているもの	5.5	
②を書いているもの	1.2	
③を書いているもの		
通分について書いているもの	27.9	
$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の3個分であることと、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の2個分であることの両方、またはどちらか一方を書いているもの	3.7	
上記以外の解答	18.6	
無解答	12.8	

○通分について書いている児童は
27.9%

(例)

$$\cdot \frac{3}{4} + \frac{2}{3} = \frac{9}{12} + \frac{8}{12} = \frac{17}{12}$$

その他の誤解答で、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

$$\cdot \frac{9}{12} \text{ は } \frac{3}{4} \text{ の3個分。}$$

$$\frac{8}{12} \text{ は } \frac{2}{3} \text{ の4個分。}$$

【この問題で求められている力】

共通する単位分数の幾つ分かを、数や言葉を用いて記述できる力

☆通分の本質的な意味を理解できているかを問う問題である。通分の計算はできるが、本質的な意味を理解しないまま操作している児童が一定数いるものと思われる。

【算数についての今後の指導のポイントとして】

分数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して、共通する単位分数を見いだすことで、既習の整数の加法に帰着できるようにすることが重要である。

そのために、授業の中で、問題にあるように、単位分数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ と異なっているため、そのままでは整数の加法に帰着できないことを考察する時間をつくり、 $\frac{1}{12}$ を共通する分数として、 $9+8$ という既習の整数の加法に帰着できることに気付くことができるようにすることが大切である。